

令和6年度筑波大学山岳科学センター機能強化推進費（調査研究）報告書

1. 課題名 : 日本における山岳ツーリズムの持続性を考える
2. 代表者名 : 呉羽 正昭
3. 参画者名 : 氏名 : 黒澤 俊平（地球科学学位 P 大学院生）
佐藤 大輔（地球科学学位 P 大学院生）

4. 研究・事業の目的

日本の山岳ツーリズムは、近い将来、グローバルな現象である地球温暖化という問題に直面することが予測される。また山岳ツーリズムの拠点となることが多い山村では継続的な高齢化・人口減少で地域社会の存続が危惧されている。さらにインバウンド観光の増加にどのように対応するのかについても不明点が多い。そうした問題点を有する山岳ツーリズムについて、今こそその持続性を考える必要がある。今回の研究では、MSC 研究拠点が存在する菅平高原と八ヶ岳高原を対象にフィールドワークを実施し、それをもとに山岳ツーリズム全体の持続性を検討する。

5. 研究・事業の成果の概要

1. 菅平高原については、統計調査および予備的な現地調査を実施した。その結果、1990 年代に冬季の訪問者が激減し、2000 年代以降は夏季を中心とした宿泊目的地としての性格を強めている。スポーツ合宿目的地として国内最大規模をほこる。ラグビーやサッカーの合宿については競合する代替地がほとんどない特徴を持つ。気温やグラウンドの質、さらには練習試合の可能性も含めた練習環境の良さが評価されている一方で、持続のためには、宿泊施設の更新や後継者不足などに課題が存在する。

2. 八ヶ岳高原では、菅平高原とは対照的に日帰り・通過型の観光者が卓越する。夏季の冷涼な気候に基づいて、県外からの訪問者が中心となっている。小海線の国内鉄道最高点やアニメの舞台（2025 年公開の劇場版『名探偵コナン 隻眼の残像』）などの一過性の目的地が人気で、ゴルフ場も立地する。星空ツーリズムの目的地としての性格も強まっているが、蓼科高原や安曇野などのように競合する目的地が多数ある。一過性ではない持続的で独自の目的地としての特徴強化が求められる。

3. 北海道のニセコ地域、特に倶知安町で増加しつつある新規宿泊施設「アパートメント」の分布変化と課題についてもあわせて分析した。その結果、家具付きの宿泊施設と性格付けられるアパートメントは、スキー場直下から周辺へ立地拡大がみられた。投機的な性格が強く、また北海道新幹線の新駅設置を見越しての投資も進んでいる。外国人の富裕層が購入したアパートメントは、外国人経営の仲介業者によって、外国人富裕層の長期滞在者に宿泊施設として利用されており、地域社会や住民との関係はほとんどないツーリズム形態が主体となっている。アパートメント増加の結果、ニセコ地域では、地価上昇のほかに飲食サービス不足、景観悪化、道路渋滞、住民との軋轢増加、宿泊施設等の違法経営などの地域課題が山積している。

4. 今後、温暖化傾向が強まると、山岳地域における夏季・冬季の気温上昇が見込まれる。そうした中でのスポーツ合宿やスキー滑降の維持を環境の保全とともに考える必要があろう。また、自地域のツーリズムの性格に基づいた顧客ターゲットを定めた管理が求められる。さらに、高齢化もあって、近い将来の労働力不足が現実的になるため、その維持を如何に実現するのも重要な課題となるのであろう。

6. 研究業績・事業実績

口頭発表

呉羽正昭：日本の国際スキーリゾートにおける新規宿泊施設の立地と環境管理．2025 年度筑波大学山岳科学センターシンポジウム「総合科学としての山岳研究への探求」2026 年 2 月．

呉羽正昭：オーストリアのスキーリゾート：その特性と課題．長野大学主催「志賀高原における通年型観光地への再編に向けた課題解決型学習の実践」（長野県山ノ内町）2025 年 11 月．

呉羽正昭：日本のスキーリゾートにおける外国人向け宿泊施設の新規立地．気候変動と社会実装（長野県白馬村）2025 年 4 月．

7. 収支

配分決定額	実 支 出 額 の 使 用 内 訳				
	物 品 費	旅 費	人件費・謝金	そ の 他	合 計
174,000円	30,543円	143,457円	0円	0円	174,000円
備 考					
主要な設備備品明細書（一品又は一組若しくは一式の価格が10万円以上のもの）					
設 備 備 品 名	仕 様（型式等）	数 量	単 価（円）	金 額（円）	備 考